

(行政視察・政務活動・議員研修) 報告書

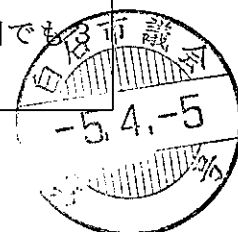
令和 5年 4月 5日

白石市議会議長 小川正人 殿

議員氏名 森 建人

下記のとおり行いましたので報告いたします。

期 間	令和 5年 3月 22日 (水) ~ 3月 23日 (木)
調査・研修先	衆議院第二議員会館
調査事項 (研修事項)	・不登校特例校について ・白石市内国道4号線拡幅について
対応者・講師等	文部科学省 総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課 課長補佐 時枝 正和氏 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導室 課長補佐 大野 照子氏 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導室 生徒指導第一係 岡本 真穂氏 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導室 生徒指導調査分析係 松田 明子氏 国土交通省 道路局 企画課 道路経済調査室 課長補佐 野村 文彦氏 国土交通省 道路局 企画課 道路経済調査室 調査第三係 北川 健氏
概 要 ① 背景・目的 ② 内容・特色 ③ 主な質疑 ④ 考察 (感想、課題、 政策提言等)	・不登校特例校について 不登校特例校は、学習指導要領の内容などにとらわれずに、不登校の状態にある児童生徒の実態に配慮した特別な教育課程を編成し、実施している学校。文部科学大臣が指定する学校で、正式名称は、「不登校児童生徒を対象とする特別の教育課程を編成して教育を実施する学校」。 白石市では4月に小中一貫の不登校特例校「白石市立白石南小学校・白石南中学校（通称『白石きぼう学園』）」を旧南中学校の校舎を活用し開校する。小中一貫校としては東北初、全国でも



不登校特例校を今後 5 年間に全ての都道府県・政令市に 1 校以上設置し、将来的に全国で 300 校の設置を目指す。構造改革特区での規制緩和の一環として、2004 年に東京都八王子市の高尾山学園に初めて導入され、2005 年に学校教育法施行規則改正で制度化されて全国に広がった。現在 21 校だが、検討中の市町村は 300 程ある。設置の為に補助金が令和 5 年度から開始されるので、設置開校への拍車がかかると思われる。

不登校特例校を設置する場合の問題として、都市部では場所の確保が難しい、先生の確保が難しい、地域住民の理解が得られない、家族の中でも意見が分かれることがある、不登校にネガティブイメージを持っている人が多い等がある。

白石市では学校の統廃合があり、使用していなかった旧南中学校の校舎を使うことが出来た。地域の方達は学校に子供たちが帰ってくることを歓迎している。学校を維持する為には通学する児童生徒が必要となる、白石市に転居して入学する児童生徒もいる、周辺の市町村より通学することは法的に問題はないが、費用負担が問題となるので、応分の費用を負担する内容の協定の締結が必要となる。周辺自治体とこの協定の締結を進めることにより、白石きぼう学園の更なる発展が期待できる。

・白石市内国道 4 号線拡幅について

国土交通省は国道 4 号白石市斎川～大平森合の計画段階評価に着手した。

国道 4 号は、東京都中央区を起点に宮城県白石市等を経由し、青森県青森市に至る延長約 838km の直轄国道。評価対象区間（以下、「対象区間」）は、白石市内の宮城県・福島県境付近に位置し、東北道と並行する 2 車線区間である。対象区間は令和 3 年 4 月に策定された防災・減災、国土強靱化に向けた道路の 5 か年対策プログラムにおいて、災害に強い国土幹線道路ネットワークの機能強化対策調査区間に位置づけられている。

計画段階評価とは、地域の課題や達成すべき目標、地域の意見等を踏まえ、複数案の比較・評価を行うとともに、事業の必要性及び事業内容の妥当性を検証する取り組みである。国道 4 号白石市斎川～大平森合にどのような問題点があるのか、地域の方々と一緒になりアンケート等で状況と課題を把握して、調査の進捗状況を公表しながら、議論を重ねて、必要な概略ルート構造が拡幅

なのか、バイパスなのか、交差点の立体化なのか等を決定する。

対象区間は4車線整備済みの南側で白石中央スマート IC を中心とした3kmである、この区間が4車線化に向け、計画段階評価に着手されたのは大変喜ばしい事である。しかし、その南側の県境を越え国見までの4車線化を実現しなければ、根本的な問題は解消しないと思われる。今後も4車線化の延長を国に要望します。